



すみだが生んだ歴史

墨田区の誕生からいまをたどる⑧

昭和から平成へ

昭和63年（1988年）3月、区では文化の向上と地域の活性化を図るため、墨田音楽都市構想を掲げ、「音楽都市づくり」がスタートし、単に音楽にとどまらず、幅広い芸術文化の振興をめざしてきました。同年7月には、区と新日本フィルハーモニー交響楽団がフランチャイズを提携。新日本フィルは平成9年10月にオープンした「すみだトリフォニーホール」を定期演奏会場とするとともに、学校など身近な会場でも良質な音楽を楽しめる機会を提供しています。

また、環境改善と災害に強いまちづくりを進めるため、駅前地区や工場跡地などを活用した再開発にも取り組みました。錦糸町駅の北側に接する地域では、副都心の玄関口にふさわしい道路、交通広場を整備し、

文化施設やオフィス、ホテル、デパートなどがオープンしました。

平成2年（1990年）3月、区民の愛唱歌に「花」を選定しています。この曲は国文学者の武島羽衣の詩に、作曲家の滝廉太郎が曲をつけ、西洋音楽の技法による日本最初の歌曲として発表された作品です。

11月には、区役所新庁舎・すみだリバーサイドホールがアサヒビール吾妻橋工場跡地に完成。昭和22年（1947年）に本所区と向島区が合併して誕生した本区では、それまで両区の庁舎を第一庁舎（両国）・第二庁舎（東向島）として使用してきました。

6年（1994年）8月、人々の環境問題への関心が高まるなかで、雨水利用東京国際会議が開催され、その実行委員会が母体となって、「雨水市民の会」が7年に発足しました。区の雨水

利用の取組みは、昭和57年、財団法人日本相撲協会が建設しようとしていた国技館に雨水利用の導入を区が申し入れたことに始まります。墨田区は国際自治体環境賞を受賞する（12年）など、雨水利用先進自治体として国際貢献していくことが期待されています。

10年（1998年）4月、すみだ郷土文化資料館が向島二丁目に開館。区民の皆さんが郷土文化に対する理解を深め、郷土意識を高めるとともに、広く教育、学術、文化の発展に資するため、関係資料を収集、保存及び展示しています。

区政では、11年4月に行われた区長選挙により、新区長に山崎昇氏が就任しました。

12年（2000年）7月、21世紀という新しい時代を迎えるにあたり、「やさしさ」や「おもいやり」の心を大切にして、「人」と「地域」と「環境」にやさしいまちづくりの推進を図っていかうと、「すみだ やさしいまち宣言」を実施しました。

墨田区では、多くの区ゆかりの文人や政治家を輩出している

すが、その一人である勝海舟の像が15年7月に寄贈され、区役所前うるおいひろばに設置されました。勝海舟は文政6年（1823年）1月、父小吉の実家である本所亀沢の男谷家に生まれました。慶応4年（1868年）3月、高輪（港区）薩摩藩邸において西郷隆盛と会見、江戸城無血開城に成功し、江戸市民を戦禍から救ったことは余りにも有名です。

18年（2006年）3月、新タワー建設地が「押上・業平橋地区」に決定しました。東武鉄道株式会社と東武タワースカイツリー株式会社では23年末の完成をめざしています。高さは、世界一の地上約610メートルになる予定（事業者発表による）。区では「国際観光都市」の実現に向け、周辺のまちづくりや区内観光資源の整備に着手しています。私たちも区内外から訪れる観光客の方々に「おもてなしの心」で迎えたいものです。そのためにも、「すみだ地域学セミナー」など、すみだの地域について改めて学ぶ機会にぜひ積極的にご参加ください。

